

「天国に送る二回目の手紙」

山本 菜衣子（沖縄県名護市／25歳 女性）

おじいちゃんへ

おじいちゃん、二回目の手紙ですね。直接会ったことも、電話で話したこともないけれど、こうして手紙を書くのは二年ぶりです。そして二回目ですね。

おじいちゃんに初めて会ったのは、東北大震災があつたちようど三週間前の宮城でしたね。その時のおじいちゃんは、棺桶の中に横たわる動かなくなつたおじいちゃんでした。話したことも、笑い合つたこともないおじいちゃんに、どう言葉を投げかければいいのか分かりませんでした。三時間後、葬儀に参加することなく、私は羽田空港で翌日のイギリス行の飛行機を待っていました。

ふと、「これが最後だ」と思い、おじいちゃんに書いた手紙、あの時の私の気持ちは天国に届いていますか？ あの時は、言葉にならない気持ちを手紙にぶつけ、うまく伝わつたかわかりません。なので、もう一度ここに二回目の手紙を、今の気持ちを書きたいと思います。

幼き日、おじいちゃんの息子である父と、障害を持つた兄を連れて再婚した母を、おじいちゃんは恨んでいると聞かされました。それから、必然的におじいちゃんと会うことはありませんでした。私たち、恨まれている。そう思っていました。それを決定づけたのは、おじいちゃんの体調が悪く宮城を訪れた時、ドラマでしか見たことがない「門前払い」を初めて味わつた時です。そして、葬儀の前に訪れた部屋で、私たち家族の写真は一枚もなかつたけれど、笑顔で従兄弟たちと写っている写真を見た時です。こんなにも人に恨まれることであるのか、と正直思いました。

でもね、おじいちゃん。おじいちゃんには恨まれているかもしれないけれど、私はおじいちゃんに感謝しています。おじいちゃんとおばあちゃんがいるから、父がいる。父と母がいるから私があります。

私は今、人生で最高に充実しています。素敵な先生や友人に囲まれ、大学院で研究に没頭し、そして昨年は研究のために一年間ブラジルへ行ってきました。ブラジルでも言葉にはできないほどの経験をすることができました。すべては紛れもなく、金銭面、精神面で常に私をサポートし続けてくれた両親のおかげです。この両親の理解なくして、私は走り続けることができませんでした。だからこそ、おじいちゃんに感謝しています。私に素敵な父を与えてくれてありがとう。

そしてもう一つ。来世で会ったら、今度はおじいちゃんと心で向き合いたい。

お父さんが私と真剣に向き合ってくれたように。